

区分・種別	県指定重要文化財（彫刻）		
名 称	もくぞうやくしによらいざぞう 木造薬師如来坐像 2軀		
所 在 地	西条市北条		
所 有 者	金性寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和32年12月14日		
解 説	JR予讃線壬生川駅の南東1.5kmの地に金性寺があり、この寺に古格を保つ2軀の薬師如来坐像が伝わっている。 2軀の像は、共にヒノキ材、寄木造、彫眼、布ばりサビ下地の漆箔像である。像高139.2cmと87cmの大小2軀であるが、そのおだやかな面相がよく似通っており、また衣文^{えもん}の特色も相通じるものがある。この2軀の像は製作上何らかの密接な関係があったものと思われる。 材は厚手で堅固な構造を示しているが、製作は11世紀末ころとみられる。如来坐像として、特に大きい方の像は注目されるが、その作技にはやはり地方風が顕著である。		

